

堀口健雄：ご存じですか？ガイアリスト 21

「ガイアリスト 21」という名前のプロジェクトをお聞きになったことがあるでしょうか。このプロジェクトはもともと社団法人動物学会から提唱されたものですが、全生物を対象とするものであり、従って藻類も無関係ではないということになります。自然史学会連合の総会報告の中で田中次郎氏も簡単に触れておられますが、もう少し詳しくご紹介したいと思います。

「趣旨」

豊かな生命を宿す地球は宇宙のオアシスである。われわれ人類はこれまでに得られた基礎科学の知識から、ヒトを含む多種多様な生命体は相互に密接なつながりを保っているのみならず、地球の地殻、水圏、大気とも有機的な相互関係を結んで、今日まで進化し、発展してきたことを学んできた。地球はそこに生息する数千万種もの多種多様な生命体と一体になった生命惑星（ガイア）である。しかし、今地球のあちこちでその健全な関係が綻びつつある。人間活動と人口の増大ともなっており、化石燃料の消費は増え二酸化炭素濃度は上昇を続けている。その影響は酸性雨や地球温暖化となって現れつつある。フロンによるオゾン層の破壊は、地上に降り注ぐ紫外線の急増を引き起こし、生命体におよぼす影響は計り知れない。また、大規模な開発や都市化の波は、地球から自然を奪いつつあり、その結果は熱帯雨林の急速な減少、砂漠の増大を招いている。このような地球環境の激変ともなっており、多種多様な生命体が地球上からつぎつぎと姿を消しつつある。人類の生存は、地球と一体になった多種多様な生命体に依存していることを考える時、このような状況は座視することのできない危機的状況と言える。それ故、生命惑星における多種多様な生命体の存在の重要性を認識し、その保全に務めることは、今日のわれわれに課せられたもっとも優先すべき課題である。そこには人類が将来地球上で生存できるかどうかのカギが隠されている。われわれは、生命惑星を将来にわたって維持するための基礎的かつ具体的計画として「多様な地球生物のリストを作製し、それらの配偶子等の細胞やゲノム DNA を保存する」ことを提案したい。計画の骨子は下記のとおりである。

「計画の骨子」

(1)地球上の全生物種の分類とリスト作成をおこな

い、さらに、個々の種について生活史や生息環境などの包括的生命情報の記載を行う。(2)記載した生物種の配偶子等の細胞や抽出したゲノム DNA を保存管理する。(3)これらに要する分類学者、分子生物学者、技術者等の養成を行う。(4)これらの事業を行うガイアリストセンター（仮称）を設置する。(5)本計画は世界的な規模で実施し、5年を1期とする10期を計画する。(6)わが国が主な資金提供国となって計画遂行にあたる。ただし、研究者や技術者の採用に当たっては国籍を問わない。

いかがでしょうか？あまりにも「壮大なプロジェクトで「開いた口がふさがらない」というのが率直な感想かもしれません。趣旨には賛同できるけれども、具体的に考えれば考えるほど、現実から遊離した案のように見えてくるというのも正直なところでしょう。しかしながら、このプロジェクトは日本が主体となった国際貢献の新しい形（科学による国際貢献）として注目され始めていることも事実ですし、何と言っても急速に失われつつある生物多様性の理解を一步でも先へ進めようという精神は尊重したいものです。とは言え、このような生物多様性に関するプロジェクトが策定される場合、研究対象として想定されているのはたいてい熱帯雨林の動植物であり、海藻やプランクトンはしばしば忘れられるというのが現状のようです。しかしながら一次生産のかなりの部分を担う藻類を忘れてよいはずはありません。もしなんらかの形でこのプロジェクトが具体化されることになった場合、藻類分野からどのような形で貢献できるのか、といったことを頭の隅に置いてこのプロジェクトに関心を持ち続けることが我々としても必要ではないか、と思いその紹介をすることにいたしました。

どんな形であれ、もし具体化されるならば、生物多様性研究の発展にとって望ましいことでもあります。藻類学会としては現時点では具体的に関与しているわけではありませんが、折りに触れ情報の提供は続けたいと考えています。

（北海道大学大学院理学研究科）

